

プログラム案

1 全体テーマ案

ゼロカーボンをゼロから見つめ直す。暮らしのゼロカーボンシフトに向けたヒントが見つかる。くらしふとconference

2 テーマ設定の背景とターゲット

言葉が先行し、手段が目的化しがちなゼロカーボン。しかしゼロカーボンは義務や負担ではなく、地域課題を解決し、持続可能な地域をつくっていくための推進力になりうる。そんなゼロカーボンのそもそもを問い直し、なぜゼロカーボンが地域創生に有用なのか、自分たちとの関わりを再考することで、暮らしのゼロカーボンシフトに向けたヒントを見つける。ゼロカーボンに関心はあるが、何をすれば良いか分からないエントリー層や、すでに取り組んでいるが次のステップを模索したい実践者をターゲットとする。

3 スケジュール案

【第1日目】土曜日午後開始～20時頃

・オープニング

・キーノートセッション～ゼロカーボンは地域の成長戦略！EUのマインドを学ぶ～

(ねらい) それぞれのジャンルを横断・統合して広い視点からゼロカーボンや持続可能な地域づくりについてビジョンを共有する

(登壇者) EUをはじめとする海外事情に詳しい専門家2～3名

・分科会

(ねらい) 観光・エネルギー・ビジネス・まちづくりなど多様なジャンルについて、多様な実践者が対話を深める

(内容) 2～3テーマを設定し、同時に複数会場で実施

・交流会

(ねらい) 参加者同士のつながりを深め、カンファレンス後のアクションコミュニティに発展させる

(内容) 立食形式で70名程度が参加

【第2日目】日曜朝～12時頃

・分科会

(ねらい) 同上

(内容) 2～3テーマを設定し、同時に複数会場で実施

・まとめセッション＋クロージング

(ねらい) キーノートで共有したビジョン、各分科会で話し合われた議論やアイデア、共通項、分科会を超えて連携できることなどを参加者全体で共有する

◆分科会のテーマ案

- ・エネルギー
～再生可能エネルギーへのシフトは、地域経済再生の起爆剤になる
- ・交通まちづくり
～建物の断熱から広域まちづくりまで
- ・食
～信州の伝統食が世界を救う？ 食とゼロカーボンの美味しい関係
- ・森林
～森に関わる担い手×関係人口
- ・観光
～環境や地域経済の再生に貢献する、信州発の新しいサステナブルツーリズム
- ・官民連携・共創
～共創するために必要なこと、コーディネーターの必要性
- ・人材育成・関係人口
～分野を超えて事業を編集し、推進する“ヒト”の重要性
- ・若者
～Z世代と考えるゼロカーボンな信州の未来
など

◆分科会ゲストの組み合わせイメージ

- ・マクロトレンドを話せる外部実践者（専門家）
 - ・長野県内の実践者
 - ・ファシリテーター
- ※ファシリテーター含め、3～4名